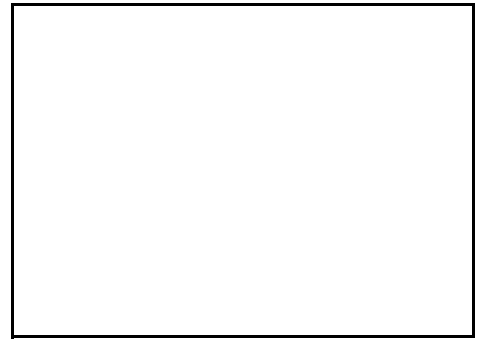


# 説明書 兼 同意書(食道・胃内視鏡検査)

紹介元医療機関名：  
\_\_\_\_\_



## <食道・胃・十二指腸の内視鏡検査をお受けになるかたへ>

検査を始める前に、胃内部をきれいにすする水薬を服用し、キシロカインの麻酔薬で喉の麻酔を行います。また腸管の動き（ぜん動）を抑える筋肉注射または静脈注射をします。検査を行う時にはベッドに左下横向きで横になります。

内視鏡（スコープ）を喉の嚥下運動に合わせてそっと挿入します。咽頭の反射の強い方はここが苦しいところです。空気を送気して食道、胃を膨らませて観察します。できるだけゲップを我慢してください。ゲップがでると検査時間が長くなり、また不十分な検査となります。検査は目で見て診断し、写真を撮り、さらに必要あれば組織検査を行うための生検からなります。

診断のための内視鏡検査でもごくわずかですが合併症がありえます。前処置で使用する薬剤でアレルギーや強い副作用を起こすことがあります。薬剤アレルギー、心臓病、不整脈、緑内障、前立腺肥大症、糖尿病のある方は問診表に記載してください。大動脈瘤、脳動脈瘤などのカミを禁じられている方も申し出てください。内視鏡の挿入に際して、咽頭反射により自律神経を介して心臓肺機能に少なからず悪影響がある場合があります。また喉や消化管は薄くて抵抗が弱く傷つきやすく破れやすいところです。緊張が強すぎると過呼吸のため手足がしびれることや、アゴがはずれたりすることがあります。また脳血栓や心筋梗塞等で血液が固まりにくくなる薬を飲んでいる場合は生検にて出血する可能性がありますし、その内服を止める事によって血管が閉塞する可能性もありますので、前もって主治医と相談してください。

出血している場合（食道静脈瘤、胃十二指腸潰瘍など）には薬剤を局所注射したり、止血用のクリップや輪ゴムでくくりまます。魚骨、菓の包み紙などの異物が認められる場合にはこれを取り除きます。また、狭窄所見が強い場合には、バルーン拡張といって内視鏡で観察しながら風船のようなもので、その狭い部分を拡張させたりすることもあります。このような内視鏡的処置が急に必要になる時もあり、その場合は消化管穿孔等の合併症の危険が観察だけの検査と比較して高くなります。

病変の状態により臓器の一部（検体）を採取する場合がありますが、その場合この検体から診断に必要な標本を作製して病理診断を行います。また、この検体で医学教育や学術研究に使用させていただくことがあります。この場合、匿名化し個人情報情報は公開されません。

検査の過程で合併症などによる予定外の追加治療が必要になった場合、それに対する医療費がかかることをご了承ください。

また、セカンド・オピニオン（他医療機関の医師の意見）を受けたい場合には、担当医へお申し出ください。

なお、内視鏡検査後に腹痛が続いたり、血液を吐いたり、また黒い便が続いたりした場合には遠慮なく下記に連絡してください。

西暦 年 月 日 時

医師： \_\_\_\_\_ 同席者： \_\_\_\_\_ ・  なし

日立総合病院 院長 殿

私は上記説明内容について

分かりました。その上で納得して同意します。また、実施中において緊急の場合または医学上の理由で、実施内容の変更や臨時の処置を必要とする場合には、その必要な処置を受けることにも同意します。

理解できましたが、同意しません。

西暦 年 月 日 午前・午後 時

患者署名： \_\_\_\_\_ 同席者： \_\_\_\_\_ ・  なし

代諾者署名： \_\_\_\_\_ [続 柄： \_\_\_\_\_ (配偶者・親権者・その他親族)]

代諾者住所： \_\_\_\_\_ 電話番号： \_\_\_\_\_